

自己点検・自己評価

(令和8年4月)

学校法人ギャラクシー学園
東京ギャラクシー日本語学校

令和7年度【自己点検】

【評価基準（評価の定義）】

本評価は、教育活動および学校運営の実施状況並びに改善状況を踏まえ、以下の基準に基づき5段階で評価する。

- 5:達成+PDCA改善が継続的に実施されている
- 4:概ね達成している（記録等により確認できる）
- 3:一部未達であり改善が必要（改善に着手している）
- 2:未達であり改善計画段階
- 1:未実施（体制・取組なし）

1. 教育理念・目的等		評価
1	1-1 教育理念・教育目標が明文化され共有されている	4
2	1-2 教育理念・教育目標が定期的に見直されている	5
3	1-3 理念・目標が教職員・学生に浸透している	4
4	1-4 理念に基づく教育活動が実施されている	4

<現状および具体的な取組・課題>

教育理念および教育目標を明文化し、教職員間で共有されている。理念に基づいた教育活動を実施しており、カリキュラムや指導内容にも反映されている。

一方で、学生への浸透度や外部への可視化については一部課題がある。今後は理念の周知方法の見直しおよび教育成果との関連性を整理し、継続的に改善を図る。

2. 教職員体制		評価
5	2-1 専任教員数が基準を満たしている	5
6	2-2 教員負担が適正に管理されている	4
7	2-3 業務分掌が明確である	4
8	2-4 教職員評価が定期的の実施されている	5
9	2-5 資質向上の研修体制が整備されている	4
10	2-6 業務遂行に十分な職員数が確保されている	4

<現状および具体的な取組・課題>

設置基準を満たす専任教員を確保し、業務分掌も明確に定められている。教職員評価や研修も実施されており、一定の教育の質が維持されている。

一方、業務負担や運用方法に一部ばらつきが見られる。今後は業務の標準化と研修体制の体系化を進め、より安定した運営を目指す。

3. 教育活動		評価
11	3-1 カリキュラムが教育目標と整合している	5
12	3-2 カリキュラムの見直しが定期的に行われている	5
13	3-3 教材が適切に選定・管理されている	5
14	3-4 授業評価と改善が行われている	4
15	3-5 試験合格率向上の指導体制が整っている	5
16	3-6 学力不足者へのフォローが実施されている	4

<現状および具体的な取組・課題>

教育目標に基づいたカリキュラムが整備されており、授業評価や改善の取組も実施されている。また、日本語試験対策や学力別指導など、学生の学習成果向上に向けた体制が整備されている。特に進学指導においては、個別面談を重視した指導を行っている。

一方で、評価結果の活用や成果の可視化に課題がある。今後は指導内容の標準化およびデータに基づく改善を強化する。

令和7年度【自己点検】

【評価基準（評価の定義）】

本評価は、教育活動および学校運営の実施状況並びに改善状況を踏まえ、以下の基準に基づき5段階で評価する。

- 5:達成+PDCA改善が継続的に実施されている
- 4:概ね達成している（記録等により確認できる）
- 3:一部未達であり改善が必要（改善に着手している）
- 2:未達であり改善計画段階
- 1:未実施（体制・取組なし）

4. 学習成果		評価
17	4-1 成績評価が客観的基準で行われている	4
18	4-2 進級・卒業判定が適切に行われている	4

<現状および具体的な取組・課題>

成績評価および進級・卒業判定は適切な基準に基づき実施されている。評価の公平性・客観性はおおむね確保されている。

一方、評価基準の明文化や成果指標の数値化については改善の余地がある。今後は評価基準の統一化と成果の見える化を推進する。

5. 学生支援		評価
19	5-1 経済支援制度の案内・運用が適切	4
20	5-2 相談・カウンセリング体制が機能している	5
21	5-3 健康管理・事故対応体制が整備されている	4
22	5-4 防災対策・訓練が実施されている	4
23	5-5 学校行事の改善サイクルがある	5
24	5-6 進路指導体制が機能している	5
25	5-7 求人開拓の取り組みが行われている	4

<現状および具体的な取組・課題>

進路指導、生活支援、相談体制等が整備されており、学生の多様なニーズに対応している。防災訓練や健康管理など安全面の対応も適切に行われている。多国籍学生への対応として、文化背景に配慮した支援を実施している。

一方で、相談対応の増加や支援内容の個別化への対応に課題がある。今後は外部機関との連携強化および支援体制の充実を図る。

6. 在留管理と生活指導		評価
26	6-1 在留管理が適正に実施されている	5
27	6-2 日本社会理解支援が行われている	4
28	6-3 法令遵守指導が行われている	5
29	6-4 学生情報が最新状態で管理されている	5

<現状および具体的な取組・課題>

在留資格管理を適切に行うとともに、法令遵守指導や生活指導を実施している。学生情報も最新状態で管理されており、安定した運用が行われている。

一方で、社会理解教育の効果測定や指導内容の標準化に課題がある。今後は教育内容の整理と評価の仕組み構築を進める。

令和7年度【自己点検】

【評価基準（評価の定義）】

本評価は、教育活動および学校運営の実施状況並びに改善状況を踏まえ、以下の基準に基づき5段階で評価する。

- 5:達成+PDCA改善が継続的に実施されている
- 4:概ね達成している（記録等により確認できる）
- 3:一部未達であり改善が必要（改善に着手している）
- 2:未達であり改善計画段階
- 1:未実施（体制・取組なし）

7. 施設設備		評価
30	7-1 教室環境が教育に適している	5
31	7-2 教室管理が適切に行われている	5
32	7-3 自習環境が整備されている	4
33	7-4 図書環境が整備されている	5
34	7-5 保健環境が整備されている	4
35	7-6 教育機器が整備・活用されている	4
36	7-7 教員室が適切に管理されている	4
37	7-8 事務室が適切に管理されている	5

<現状および具体的な取組・課題>

本分野については、教室・設備ともに教育に適した環境が整備されており、定期的な管理・点検が行われている。教育機器も適切に活用されている。

一方で、一部設備の更新や学習環境のさらなる充実に課題がある。今後は利用状況を踏まえた計画的な改善を行う。

8. 学生の募集と受け入れ		評価
38	8-1 広報内容と方法が適切である	5
39	8-2 教育成果が正確に情報提供されている	5
40	8-3 募集要項が適正である	4
41	8-4 入学選抜が適切である	5
42	8-5 仲介機関管理が適切である	5
43	8-6 定員管理が適正である	5
44	8-7 退学理由が把握されている	5

<現状および具体的な取組・課題>

本分野については、募集方針に基づき適切な広報活動および入学選考が行われている。教育内容や成果についても一定程度適切に情報提供されている。

一方で、教育成果の数値的な提示や募集戦略の高度化に課題がある。今後は実績データの可視化と広報力の強化を図る。

9. 学校運営		評価
45	9-1 運営方針が明確である	5
46	9-2 事業計画が策定されている	4
47	9-3 理事会等が機能している	5
48	9-4 議事録管理が適切である	5
49	9-5 人事・労務制度が整備されている	4
50	9-6 規程が整備されている	5
51	9-7 規程の見直しが行われている	5
52	9-8 部門間連携が取れている	5
53	9-9 安全計画が整備されている	4
54	9-10 個人情報保護が徹底されている	5
55	9-11 ハラスメント対策が整備されている	4

<現状および具体的な取組・課題>

本分野については、運営方針および事業計画に基づき、理事会等の意思決定機関が適切に機能している。規程整備や安全管理体制も概ね整備されている。

一方で、業務の属人化や部門間連携の強化に課題がある。今後は業務プロセスの明確化と情報共有の強化に取り組む。

令和7年度【自己点検】

【評価基準（評価の定義）】

本評価は、教育活動および学校運営の実施状況並びに改善状況を踏まえ、以下の基準に基づき5段階で評価する。

- 5:達成+PDCA改善が継続的に実施されている
- 4:概ね達成している（記録等により確認できる）
- 3:一部未達であり改善が必要（改善に着手している）
- 2:未達であり改善計画段階
- 1:未実施（体制・取組なし）

10. 財務		評価
56	10-1 財務基盤が安定している	4
57	10-2 予算計画が適正である	5
58	10-3 財務指標が健全である	5
59	10-4 監査が適正に行われている	5
60	10-5 財務情報公開が行われている	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

本分野については、財務基盤は安定しており、予算管理および監査も適切に実施されている。財務情報の公開体制も整備されている。

一方で、収入源の多様化や将来に向けた財務戦略の強化が課題である。今後は中長期的な視点での財務計画を検討する。

11. 法令等の遵守		評価
61	11-1 法令遵守体制が整備されている	5
62	11-2 個人情報保護対策がある	5
63	11-3 自己点検・改善が実施されている	5
64	11-4 評価結果が公開されている	5
65	11-5 行政報告が適時行われている	4

<現状および具体的な取組・課題>

本分野については、法令遵守体制が整備されており、個人情報保護や行政報告も適切に実施されている。自己点検・評価の仕組みも継続的に運用されている。

一方で、制度変更への迅速な対応や教育体制の強化に課題がある。今後は研修等を通じた意識向上を図る。

12. 社会貢献		評価
66	12-1 地域連携・社会貢献活動がある	4
67	12-2 学生ボランティア支援がある	4

<現状および具体的な取組・課題>

地域連携活動や社会貢献活動が実施されており、学生のボランティア活動も支援されている。

一方で、活動内容の体系的な整理および成果の可視化に課題がある。今後は計画的な実施と記録の充実を図る。

令和7年度【自己点検】

【評価基準（評価の定義）】

本評価は、教育活動および学校運営の実施状況並びに改善状況を踏まえ、以下の基準に基づき5段階で評価する。

- 5:達成+PDCA改善が継続的に実施されている
- 4:概ね達成している（記録等により確認できる）
- 3:一部未達であり改善が必要（改善に着手している）
- 2:未達であり改善計画段階
- 1:未実施（体制・取組なし）

〈総括〉

本校は多国籍の学生を受け入れており、それぞれの文化的背景に配慮した教育・生活支援を実施している。本年度は、教育理念に基づき、安定した学校運営および教育活動を継続的に実施した。在籍学生数は安定して推移し、出席管理、進路指導、在留管理等の各分野において適切な運営が維持されている。特に在留管理については、関係法令を遵守し、優良校としての水準を維持している。

教育活動においては、カリキュラムに基づいた授業運営を行うとともに、授業評価や学生アンケートの結果を踏まえた改善を継続的に実施している。また、進学・就職支援についても個別対応を強化し、一定の成果が確認されている。

前年度における課題であった教育活動の一部運用のばらつきおよび支援体制の強化については、教務会議等における共有および対応方針の整理を行い、改善が進んでいる。

一方で、教育成果の数値的把握および取組の標準化については引き続き課題が見られる。今後は、出席率・進学率等の主要指標（KPI）を活用した成果管理を強化するとともに、各取組の運用基準の明確化を進め、PDCAサイクルの更なる定着を図る。

以上のことから、本校は認定日本語教育機関として、教育の質の維持・向上に向けた体制が適切に機能していると評価する。今後も継続的改善を行い、教育の質保証および透明性の確保に努める。

責任者 永井 早希子

実施期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日